

1事例目	2事例目
<p>友人の行動が励みになっているように感じたので、友人と共に行動できる様な環境を整えれば良いと思う。 服薬に対しては主訴に対する服薬指導を重点的に行う事で服薬コンプライアンスの改善につながると思う。</p>	<p>体重増加による足の負担を考え、食量やメニュー内容の指導を管理栄養士等にしてもらおうと思う。 病院での精査をご家族と共により強くすすめ、原因がわかれば、状態や病態に沿った社会資源が活用できると思う。</p>
	<p>まだまだ若い！お孫さんと一緒に外出する事を目標に「楽しみな計画を立てて」頑張ろう。生活リハビリも重要なリハビリ。出来る事は継続してほしい。地域を含め多くの方が理解しておられるので、是非、皆様の力を借りてほしい。</p>
<p>リハ職同行訪問で評価をして頂き、現状を本人が知る事であきらめていた事についての希望もでてくるのかも…と思った。</p>	<p>・原因がわからない事自体の不安は計り知れないと思う。家族を巻き込んで本人の受診に対する恐怖心を和らげ受診につなげられるよう勧めてみては…と思う。 ・サービスの利用を通して、専門医の受診の必要性や状態に応じてのリハビリの効果を感じて頂ければ前向きになれるのではないかと思った。体力測定で成果が見えればモチベーション維持につながるのでは。</p>
<p>トイレに行く時は、トイレで立ち上がるのではなく歩行器で立ち上がり、トイレ近くでは手すりにつかまりながら歩いてトイレで座る様にする。トイレの便器で立ち上がるのはかなり難しい。歩行器からトイレに移るまでの手すりをつけられないだろうか？</p>	
<p>「時間が経てば」「こんどは」…は歩くのはあきらめの表れだと感じる。⇒新たな(今の)移動方法でどう安全に過ごすかを考えるといい。</p>	
<p>(両事例) 本人の健康面(血圧や食事、痛みの原因など)が詳しく分かると良い。</p>	
	<p>子ども防犯ボランティア活動への参加。 自宅近くに幼稚園があるとのことなので、登園など子どもたちの活動時間にあわせて家の外に出ていただく。 もともと人のお世話をされていたので、地域の子どもを見守りながら自分自身も活動量を増やすことができれば、運動のモチベーションになるのではと思う。</p>
	<p>体重の増加が気になるので、妻と相談、または栄養士の指導を受けて、減量できるものであれば減量できるとよいのでは。 体重が少しでも軽くなれば、外出時の移動も楽になり外に気持ちが向くのではないかと感じる。</p>
<p>・生活は概ね送られているようなので自宅環境に合った環境調整や身体機能の維持目的のストレッチや筋トレの指導の獲得のための訪問リハビリの導入 ・歩行の獲得を目指すのであれば歩行の機会を増やす目的で今できる距離で歩く場所を決め、椅子など設置し休憩できるスペースを作りながら歩く。友人と一緒に歩きながら自主トレの定着を図る。 ・歩きたい希望はあるが、具体的に本人が困っている部分、どういう場面で歩きたいか等を聴取してそれに合った目標設定を決めるのもよいのでは？</p>	<p>・訪問リハビリの中でご家族の介助方法や転倒リスクを指導しご家族と散歩(遊歩道整備されているのでお孫さんと桜を見に行く等) ・座位時間が延長できればデイサービス半日等離床する生活リズムを付けていき、活動量のアップによる筋力upと体重減少を図っていく。 ・体重管理で食事記録表など記録し食事摂取量・カロリー等や運動後の消費カロリーの把握、毎月体重変化を記録し食事や体重増加による身体の影響などを意識していただき、運動の意欲のupを図る。</p>
<p>薬を自己判断で中止・開始してしまう、との記載があったが、軽度認知障害で病気をしたこと自体を忘れているとのことで何のための薬か理解できていないのではないかと思った。また、1mも歩けない現状でどのように田んぼ(畑?)で作業されているかあまり想像ができなかったが、チェックシートで唯一「してみたいこと」の畑仕事ができるようになるために(現在もしている?)、歩けるようになるために、服薬管理の大切さや適切なリハビリの必要性を繰り返し伝えていく事が大切ではないだろうか。</p>	

外出への意欲はある方なので、可能であればリハビリの回数を増やして、他者との関わりを多く
してみるはどうだろうか。関わりの強い方から助言などして頂くのも良いかと思う。

(両事例)

もともと活動的な方が現状の原因究明には消極的なことが気になった。その原因の中に生活の改善を図る上でのヒントがあるのかなと思った。